

その他

他大学の授業改善への取組の紹介

－ 東北大学の「基礎ゼミ」 －

土持ゲーリー法^{*}

弘前大学では「基礎ゼミナール」が、各学部・学科・課程・専攻ごとに実施されている。その概要には、「少人数のゼミナール方式によって、高校までとは異なる、大学における自主的な勉強方法について学びます。担当の先生の説明を一方的に聞くのではなく、受講するみなさんの積極的な授業活動や、課外学習が中心となります。授業で扱われる具体的な課題や教材は、学部・学科・課程や、担当者によって異なります。」と記されている。また、具体的な達成目標については、以下の5項目が掲げられている。

- 1) 自主的な学習態度を獲得すること
- 2) 課題発見能力を高めること
- 3) 資料(情報)の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得すること
- 4) 基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること
- 5) 学生と担当教員、および学生相互におけるコミュニケーションの場を作り出すこと

現在、「基礎ゼミナール」は、120のクラスで実施されている。初年次教育の重要さが指摘されるなかで、その役割は益々高まっている。また、「基礎ゼミナール」に関する本格的なFDワークショップもはじめている。

東北大学における「基礎ゼミ」について、大瀧保「『基礎ゼミ』の目指したもの、そして得られたもの 基礎ゼミ『おもしろい光の話』を実施して」(『年報』(東北大学 大学教育研究センター)(2005年3月))が掲載されているので、「他大学の授業改善への取組」として、その概略を以下に紹介する。

- 1) 少人数編制の学生を対象とした全学教育、「基礎ゼミ」が、本格的に開始されて4年が経過している。
現在では、全学的な協力体制も整い、その結果、多くの輝かしい成果が得られ、日本でも最も素晴らしい全学教育ゼミの一つとして、自他共に認めるほどに発展している。
- 2) 東北大学では、新入生に対する「少人数教育」は、それ以前にも行われてはきたが、その多くは学部ごとに開設され、主として、その学部に関連する学生を対象にした、いわゆる専門教育への導入の感の強いものであった。一方、学部に関わらず、全学の新入生を対象にした「少人数教育」も実験的に開設されてはいたが、その開講数はまだ極端に少なく、また100名以上のクラスの「全学教育」も多く存在するなど、「少人数全学教育」はまだ十分には整っていなかった。
- 3) 「基礎ゼミ」検討会議では、「基礎ゼミ」の定義と理念を「『基礎ゼミ』とは、学部に関わらず主として新入生を対象に全学的体制で行われる教育で、20名以下の少人数で、担当教員と学生、および学生相互間において、“Face to Face”の親密な人間関係の中で、かつ学生の受け身ではない学生主体の下で行われる教育」としている。

^{*} 弘前大学21世紀教育センター高等教育研究開発室

Faculty Development Office, Center for 21st Century Education, Hirosaki University

4)「基礎ゼミ」の達成目標として、以下の5項目が掲げられている。

- (1) 新入生の期待と意気込みに応え、学習や学問・研究への意欲を持続させ、それをさらに高める。
- (2) 将来専門教育を学ぶにあたり、専門的閉鎖に陥ることのない広い視野と柔軟な思考力を培う。
- (3) 学問のおもしろさと重要性、学問への取り組み方、調査・観察・実験の重要性、推論や思考方法とその表現方法、学問的討議や共同作業の仕方を学び、主体的に学問行動のできる能力を培う。
- (4) 教員と学生、学生相互間の学問的、人間的関係を密にすることによって、大学人としての意識や人間関係を育み、今後の大学における学問生活と学生生活が軌道に乗るようにする。
- (5) 大学を卒業した後も現代社会の知的市民として活躍できる教養・技法・倫理を身に付けた人材となる。

5) 具体的な「基礎ゼミ」のあり方として、「基礎ゼミ」の単位は2単位として、20名以下の少人数教育を維持するために、少なくとも130コマを開講し、総計260単位を割り当てる。

6)「基礎ゼミ」で取り上げる望ましい課題として、

- (1) 担当部局の専門科目的なものではなく、一般学生が興味を持てるような課題とする。すなわち、例えば、「稲」、「水」、「光」、「貨幣」、「言語」、「記憶」などのように、文系および理系の両面から考察することができるような学際的な課題とする。
- (2) 「基礎ゼミ」の開講数は、当面教員数に応じて、各部局に一定の比率で割り当てることにし、その担当となった教員はその責任において、課題名や内容、もしあれば分担協力者、開講の形式(集中など)を決める。
- (3) 研究所等からは、「負担の増」という意見も強く出されたが、学生側からすれば、これら世界に誇る研究所等の学問や施設、それに教員と、一部の専攻学生を除いては、まったく接する機会がないまま卒業するのも残念なことであり、また研究所等の充実した総合大学としての利点の上からももったいないことである。研究上あまり負担増とならない方策を担当教員に考慮してもらうことで了解を得たとしている。

以上から、「東北大学の『基礎ゼミ』は制度的にも内容的にも一気に充実することになり、名実共に全国に誇りうるものとなった。」と結んでいる。